

# 畜産試験場、畜産試験場養鶏研究所成果発表会 発表課題 要約

## 1. 県内和牛繁殖農家における妊娠率等の算出および生産現場への適用

(畜産試験場大家畜部 主査研究員 高田広達)

16戸の農家を対象に令和5年度の授精率(発情発見率)、妊娠率および受胎率を算出した。授精率(発情発見率)×受胎率=妊娠率ではあるが、妊娠率の向上には授精率(発情発見率)を上げることのほうが受胎率を上げることよりも影響が大きいことを示した。また妊娠率の向上が分娩間隔の短縮につながる可能性があることを示した。これらの数値を指標として県内農家の分娩間隔の短縮および成績向上を図る。

## 2. 一人での牛体内採卵の実施に向けた取り組みについて

(畜産試験場大家畜部 副主査研究員 片山晃志)

牛の体内受精卵の採取(以下採卵)について、一人での採卵実施による作業全体の効率化をはかるために、採卵技術に関する情報収集と当場の採卵における活用を検討した。その結果、得られたノウハウにより採卵の作業時間が短縮され、作業の効率化がはかられた。今後、得られたノウハウについて検討を続け、一人での採卵の実施につなげていく予定である。

## 3. 豚舎における衛生レベル向上に向けた取組

(畜産試験場生産環境部 主査研究員 宮本泰成)

新しい消毒技術であるマイクロMIX法は、有機物存在下でも当場の従来法より消毒効果が認められた。ネズミ対策ではセンサーカメラによる行動調査と殺鼠剤や粘着トラップ等による対策を実施したところ、殺鼠剤を持ち帰るのが確認でき、また粘着トラップ等による対策で飼料の食害を防除できた。

## 4. 暑さに負けない養鶏経営

(畜産試験場養鶏研究所 主任研究員 山田陽子)

養鶏経営における暑熱対策技術として、環境資材、飼料添加物それぞれの単独の効果を調査した。高齢群では環境資材は屋根への石灰乳塗布および屋内ミストの設置、飼料添加物は、梅抽出物(BioX70)+重曹に費用対効果が認められたが、若齢群では対照区との有意差は認められなかった。